



こくようせき やじり 黒曜石の 鏃 (中ノ台遺跡出土遺物、一宮町教育委員会所蔵)

【縄文時代】

なかのだいせいせき いちのみやまち なんぶ つなだちいき じょうもんじだいちゅうき いせき へいせいねん
中ノ台遺跡は一宮町の南部、綱田地域にある縄文時代中期の遺跡です。平成9年

(1997)に個人住宅の建設に伴い、一部が発掘調査されました。竪穴住居跡等の

いこう かくにん とき せつきとう しゅつど
遺構が確認されたほか、土器や石器等が出土しました。

なか こんかいしょうかい こくようせき やじり こくようせき かざんがん いっしゅ じょうもんじだい
その中で今回紹介するのは黒曜石の鏃です。黒曜石は火山岩の一種で縄文時代

には石器として用いられ、りゅうつう 流通しました。なかのだいせいせき こくようせき ぶんせき
分析をしていない

さんち
ため産地はわかっていません。

こくようせき せつき やじり ゆみや せんたん ちいき
この黒曜石の石器は鏃であり、弓矢の先端につけられたものです。この地域でも、

しゅりょう おこな
狩猟が行われていたのでしょうか。

いせき
ちなみにこの遺跡からは

こくようせき はくへん み
黒曜石の剥片も見つかって

います。これは石器をつく

さい げんせき けず
際に原石から削ってできた

はへん こくようせき
破片であり、ここで黒曜石

けず やじり つく
を削って鏃を作っていた

ことがうかがえます。

